

パネリスト

加藤 礼三

理化学研究所 開拓研究本部 加藤分子物性研究室

rezo@riken.jp

1984 年 東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程修了

1984 年 東邦大学理学部 助手

1988 年 東邦大学理学部 講師

1990 年 東京大学物性研究所 助教授

1999 年 理化学研究所 主任研究員

2020 年 理化学研究所 研究政策審議役



阿部 喬

理化学研究所 仁科加速器科学研究センター核分光研究室

takashi.abe@riken.jp

略歴

2020 年 理化学研究所 仁科加速器科学研究センター 核分光研究室、協力研究員

2013 年 東京大学 大学院理学系研究科 物理学専攻、助教

2011 年 東京大学 大学院理学系研究科 附属原子核科学研究センター、特任助教

2007 年 東京大学 大学院理学系研究科 附属原子核科学研究センター、特任研究員

2007 年 東京工業大学 理工学研究科 基礎物理学専攻 博士課程修了、博士（理学）

普段から富岳などのスパコンにリモートでアクセスし数値計算を行うことが主な研究活動なので、その面に関してはコロナ禍の影響は少ない。一方で、共同研究の打ち合わせや議論は対面ではなく zoom などによるオンラインが主となった。



早澤 紀彦

理化学研究所 Kim 表面界面科学研究室

hayazawa@riken.jp



略歴

2001年大阪大学大学院工学研究科応用物理学専攻修了・博士（工学）
2001~2002年 日本学術振興会特別研究員
2002~2004年 科学技術振興機構ポスドク
2004~2009年 理化学研究所・研究員
2009~現在 理化学研究所・専任研究員
2016~現在 フィリピン大学ディリマン校国立物理学研究所 客員教授

コロナによる入国制限及びプラス α の理由により、フィリピンからのポスドクによる遠隔操作と理研での私の近接作業のハイブリッド実験を行っている。

Chee Fai FONG フォン チーフアイ

理化学研究所 加藤ナノ量子フォトニクス研究室

cheefai.fong@riken.jp



略歴

2021年4月～ 基礎科学特別研究員
2020年4月-2021年3月 特別研究員
2018年9月-2020年3月 Research Fellow, Department of Physics and Applied Physics,
Nanyang Technological University
2018年3月 東京大学大学院 理学系研究科 物理学専攻 博士課程修了

I was unable to enter Japan for more than a year and a half due of the pandemic. Fortunately I was able to work from home, focusing mainly on numerical simulations of photonic nanostructures.

パンデミックの影響で、一年半以上日本に入国できませんでした。おかげさまで、自宅勤務ができ、主にフォトニックナノ構造の数値計算をしていました。

Nancy Paul

Lab. Kastler Brossel, Sorbonne Univ., CNRS.

npaul@lkb.upmc.fr



略歷

2015 Master, The University of Notre Dame, USA.

2018 PhD in Nuclear Physics, CEA Saclay, Irfu-DPHN,
Université Paris-Saclay, France.

2019 Postdoc., Laboratoire Kastler Brossel, Sorbonne Université,
CNRS.

2021 Researcher, CNRS, Laboratoire Kastler Brossel

As both a full-time researcher and mother of two small children, the COVID-19 crisis was particularly challenging because it meant that research and kindergarten had to find a way to “cohabitate” under the same roof under the lockdown. Thankfully, having recently completed a successful experiment at JPARC, I didn’t need to gather additional data in the laboratory, but finding time and mental space to concentrate on data analysis was a unique challenge. The COVID-19 crisis did however lend itself to new opportunities, instead of being in my office in the afternoon I was often out walking my kids in the woods, which provided a chance to think more creatively, and a number of ideas for new projects had the opportunity start to grow. Looking back, the pandemic taught me to treasure and appreciate the interactions with my colleagues, optimize the time that I have for detailed analysis, and seek new opportunities and spaces for creative thinking.

松崎 維信

理化学研究所 田原分子分光研究室

kmatsuzaki@riken.jp



略歴

- 2021年 理化学研究所 田原分子分光研究室 研究員
- 2018年 理化学研究所 田原分子分光研究室 基礎科学特別研究員
- 2014年 マックス・プランク光科学研究所 Sandoghdar division 博士研究員
- 2014年 東京大学大学院理学系研究科化学専攻 博士課程修了
- 2011年 理化学研究所 田原分子分光研究室 大学院生リサーチ・アソシエイト
- 2011年 東京大学大学院理学系研究科化学専攻 修士課程修了
- 2009年 東京大学理学部化学科 卒業

コロナ禍が始まって以来、理研には実験を行う時にのみ行き、デスクワークは基本的に自宅で行うようになった。ミーティングもオンラインミーティングが中心となった。

村山 理恵

理化学研究所 岩崎中間子科学研究室

rie.murayama@riken.jp



略歴

- 2017年3月 大阪大学 博士（理学）学位取得
- 2017年4月-2020年3月 高エネルギー加速器研究機構 研究員
- 2020年4月-現在 理化学研究所 特別研究員

「コロナ禍が研究生活にもたらしたもの」
以前から課題だった「身軽に動けないもどかしさ」が、多くの研究者に共通の課題となり改善方法が工夫される様になった。